

なごのJHロウ...

古布細工 あたらしや



ピエロねこの「グリーン」



古布で作ったピエロねこの「グリーン」です。ちょっと緊張ぎみですが、表紙のねこです。
はるかむかし？24年前・・・筆笥の奥の古布をアレンジしてピエロねこを作りました。
当時走り出したばかりのエコロジーとねこをひっかけてごろにゃ〜んとつけた
「ねころじー展」と題する初の作品展を開きました。
その時からのんびりまったりですが、古布を使ってねこ、うさぎ、きつね・・・の
人形や小物などを作っています。
古布は再利用のエコで地球に優しいですが、時代を経た味わいは心にも優しいのです。
私の作ったピエロねこやら、うさぎ雛やら、はたまた文化人形などをご覧くださいませ。

ピエロねこの「とら」



古布を着たピエロねこをアンティークの蓄音機にのせて写真を撮ってみると”何か、言いたげ”作り始める時どんなねこにしようかとイメージを膨らませます。

でも顔をペイントする内に・・・あれっ？・・・お似合いの古布を着せながら・・・あれれっ？！私の想いから少しづつはみ出して・・・全然違った表情を浮かべるようになったりします。作者の私を差し置いて、何かしらピエロねこ自身が個性を育てているように思えるのです。さて今日は何をしゃべりかけてくれるのでしょうか。

ピエロねこの「くろ」



龍の柄の古布で作ったピエロねこの「くろ」です。帽子を取ると可愛いお耳が出てきます。

「龍」と言えば、主人の祖母が毎年梅雨の前になると言っていたことがあります。

私の住む町にはお城があり、そのそばを川が流れているのですが。・・・祖母曰く・・・

「空が一転にわかにかき曇ると、お城にある井戸から大きな龍が天をめがけてビューンと上がってまいります。そしてお城そばの川で水浴びをするのです。そうすると梅雨になるんだよ。」

入梅の頃、川の水が増えると大きな黒々とした鯉がどこからかいっぱい集まり、バシャ！バシャ！と。

まさに龍が水浴びをしている感じです。鯉の産卵なんではないでしょうか？一時、平和な川では無くなります。

鯉は滝を昇って龍になるとか、龍は水神様のお使いとか、昔の人は川や生き物をよく見ていたんですね。

その感覚と感性にはちょっと感動します。本当に「龍」が昇り水浴びをしているかも・・・しれませんね。

文化人形の「むらさき」



私の作る文化人形はしらゆきさん。色白のべっぴんさんです。

色の白いは七難かくすと言いますが、この文化人形のお顔はあたたかみのある白です。

白い絹を使って作ります。お洋服は優しい古布です。作っている当の私は「白い肌はどこに～！」

私のお顔は日々の紫外線との戦いによるしみ・しわに加え長年のほこり・ちりも積もっています。

白い絹にお顔を描く時、べっぴんさんになーあーれー！と気合を込めて描きます。

色の白いは七難隠す、しらゆきさんは可愛いおめめで私を見ています。

ハイ！べっぴんさんの完成です。彼女は満足してくれてるでしょうか。

文化人形の「紅梅」



この文化人形は背丈一尺ほどで古布のお洋服を着ています。一尺は昔ながらの文化人形のサイズ。

私の子供の頃、お人形と言えバリカちゃん。自分の人形を持っていました。

私の母の子供の頃は文化人形。姉妹でひとつ「もーやいこ」です。「もーやいこ」は名古屋の方言。姉妹でひとつの文化人形、「わたしの！」「わたしの！」と言っていると「もーやいこで。」と親から怒られたそうです。「はい！お姉さんどうぞ。」姉さんはお人形に絵本を読んであげました。

「はい！妹ちゃんどうぞ。」妹はお人形をおんぶしてねんねねんね。「かして～ね。」「ありがとう。」

二人はお人形を間におままごとをしました。文化人形は姉妹でなかよく「もーやいこ」でした。

ただ共同でと言うだけでなく、ひとつのものを譲り合いながら一緒に使う。

相手を気づかいながらひとつのお人形を大切に使うという感じなのでしょう。

「もーやいこ」だった文化人形の優しさ、あたたかさが好きで、私は文化人形を作っています。

うさぎ雛の「萌木」



優しい色の古布を実際の束帯や内掛けの様にチクチクと手で縫って着せたおひな様です。
手と言えは寒くなるとハンドクリームのお世話になります。あかぎれ、ひび、ささくれ・・・
拭き掃除や土いじりをした後はひどくなりますねえ。お漬物の汁を絞る時、キャー痛い。
娘と私の母と私が・・・それぞれの手を見て・・・若い娘の手、おばさんの手、おばあちゃんの手
同じDNAを持っているからなのか、どことなく似ている。年代別サンプルのような手。
おばあちゃんの手はしわしわで爪も堅そう。皮膚を摘まむとお山ができて「ちーとも痛くないわ。」
おばさんの私の手はしわ、手荒れでマニユキアも似合わない。摘まむとまだ「痛いっ！」
娘の若々しい手はりりん、爪もつやつや。摘まもうとしても摘まめない。
まあ年が出るのは手だけではない。お顔も同様。なんか女三代、ワイワイとにぎやかです。
年を重ねても元々は女の子です。おひな様を作っていると私は楽しい気分になります。
ちなみにしわをPCで変換したら・・・皺・・・雛と似ててなんか面白いですね。

うさぎ雛の「式部」



箱から出てきたうさぎのおひな様、さー飾りましょうか。

うさぎ雛は娘が3月3日生まれと言う事で作り始めました。娘は丸一日以上かかる難産でした。

初節句には無事に生まれてありがとう、元気に育ちますようにと子どもの健康だけを願いました。

健康で十分と願ったのに、育てる内にあれもこれもとお願い事が増えてます。欲張りなものですねぇ～。

娘も大きくなると「おひな様出すの おっくーだなー・・・」と思うこともあります。

でも「やっぱり、2月の風にあてましょう。」と始めます。「今年も娘が健康でありますように。」

我が家には、娘の木目込み段飾り、私の古い御殿飾り、旅先で集めた焼き物や木彫りなどの

小さなおひな様がいっぱい、おひな様天国となります。飾るのにはけっこう決心と体力がいるのです。

思い立ったら吉日。おひな様、「さー、飾りましょう！」

きつねの嫁入り



古布で作ったきつねの嫁入りです。菊の柄のお振袖で角隠しも初々しい、ちょっと昔の風情。

はこせこ・扇子・羽織の紐・・・小さい所もこだわって手作りです。

金屏風の前で前途洋洋、狐ヶ原は祝福の嵐、嵐。

なんといっても天気雨がきつねの嫁入りですから。

お嫁に行くのは嬉しいけど・・・お父さん、お母さんとお別れするのは・・・涙。

幸せだけど旅立つ・・・涙。 やっぱり、天気雨みたいです。

振袖うさぎの正座



「さあ、覚悟を決めましたわよ。」古布で作ったうさぎ姫です。背筋を伸ばし、きりりと正座。なのに、足はなぜか可愛い。頭は握りこぶしぐらいのサイズで結構大きいうさぎ姫です。大切な事は覚悟して自分で決めます。決めたはずなのに後になってみると、ご縁があって決まっていた事だったかなあと思う事も。ご縁というものは確かにあるようですね。出来るなら悪縁、腐れ縁よりも良縁希望、ですね。このうさぎ姫のお着物は古布縮緬の可愛いお花柄で作りました。この赤いおべべを着ていた子は愛情に包まれた可愛いねんねちゃんに違いない。それが私の手元に。ご縁ですねえ、良縁ですとちくちく縫ってうさぎ姫に着せました。

振袖ねこの歌留多



このねこは振袖を着てかるたをしています。

年の頃なら番茶もでばな、花なら蕾の女の子・・・んっ？ねこのかるた？・・・

そもそも、ねこ語なんてあるの？人には理解出来ない言葉だから「鳴き声」で済ませますが
犬でもねこでもすずめでも何か話しているようで、言葉が分かったら楽しいでしょうね。

「あそこの奥さんゴミ捨ての時はすっぴんでまゆげニャーのよね。」とか

「お向かいの旦那さん、お出かけの時放屁しながら歩いて行くチュンね。」とか

こんな事なら知れてますけど、知られたら困るひみつ・・・そんなのを話してたら・・・

やっぱり人類の平和のために鳴き声ですましておく方が良さそうですね。

ちなみに、ねこのかるたには・・・ねこに小判・・・なんて書いてあるんでしょうかね。

古布ねこの大将



ねこの大将の顔の縮緬の優しさや着物の質感が心地よくて好きです。

一枚つつ衿を合わせ、仕立てた着物を着せ、帯を締め、袴をはかせて陣羽織を羽織させます。

胸元にははこせこを挟みます。顔は髭や眉だけで無く、銀色の目には睫毛もはえています。

口には白いガラスの歯を・・・作業はこつこつですが、形になってくると楽しくなって来ます。

出来上がったねこの大将の瞳には、その日のお天気がうつり込んでいる様な気がします。

人形を作っているとその人形の物語が浮かんできます。童話、おとぎの世界、不思議なお話・・・

可愛くて楽しいだけでなく、悲しかったり恐ろしかったり。心の中で物語が膨らんでいきます。

人形は何も話してはくれませんが、観る人の気持ちを映し出してくれるのかもしれないね。